

教育者研究会で学びました!

平成25年8月7日(水)第50回教育者研究会の岐阜県4会場の内、岐阜会場に参加しました。会場は長良川スポーツプラザです。午後1時の開会に合わせ、森理事の車に神谷副会長と小生が同乗。

今回は、初めて岐阜市が会場ということで、関係者の開会にこぎつけるご苦労はさぞや大変だったろうと推察しました。会場は、駐車場も広く、落ち着いた雰囲気環境にありました。他に、本会からは、松野副会長、北村会計が参加してくださいました。

開会式は、国歌斉唱の後、岐阜県モラロジー協議会古川定邑会長のご挨拶、(財)モラロジー研究所を代表して三宅敏行氏による主催者挨拶がありました。また、地元を代表して細江茂光岐阜市長、教育長代理より「教育立市」「心の教育推進」の力強いご挨拶も心に残るものでした。テーマは、引き続き「思いやりの心を育てる」です。

ご挨拶された皆様の「東日本大震災」や、「いじめ」問題に関する課題意識は、「思いやる心」を日常生活の中でもち続けることが、我々の「心の命題」であると、改めて考えさせられました。



開会挨拶・古川会長



主催者挨拶・三宅氏



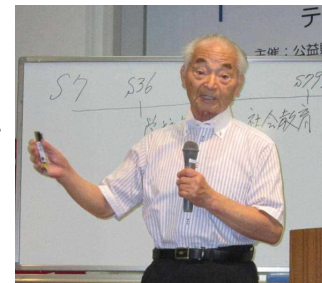
来賓挨拶・細江市長

平成25年度 研修内容

第1講「道德性の必要性を考える」

社会教育講師 穂苅 満雄 先生

穂苅先生は昭和7年のお生まれです。戦後の教育を「教える立場」で体験されてきたお方です。「犠牲を払った分しか良くならない」の一言には、その信念の迫力を感じました。特に、聖職者として1対1の人格的感化力をもたねばならないという強い使命感は、ご自身が率先垂範されてきた自信を感じました。「熱意・誠意・創意」の三意主義で、信念と愛に点火し、人間的魅力を発揮しようと、若き教育者へエールを贈られました。



教育実践発表「自己のよさを再発見することのできる道德の時間の在り方」

岐阜市立長良西小学校 前田 知美 教諭

前田先生は、6年生担任時の実践を発表してくださいました。「6年生だから…」という言葉は、彼等にとって功罪両面をもたらします。「やって当たり前」「できて当然」の指導観からは、活発でのびやかな最上級生は育ちにくいように思います。前田先生は、自己のよさを気づかせる、再発見させる道德の時間をめざされています。まず、朝の会と帰りの会で児童の意識改革に努めました。「生活ノート」や日常の生活ぶりから取材し、児童の今を掴む努力も怠りません。「私たちの小さな駅」でA子さんは、日頃の自分の取組に自信をもったようです。日頃から、「〇〇さんのようだね」と道德資料の主人公に重ねて評価する前田先生の言葉が、児童の確かな意欲を引き出していると感じました。



第2講「道德教育で大切なこと」

文科省初等中等教育局教科調査官

赤堀 博行 先生

昨年に続き赤堀先生のお話を聴きました。プレゼンの題を聴衆に質問し、私たちに考えさせながら、親切な解説をしてくださいました。「道德教育は何を目指していますか」

「なぜ『学校の教育活動全体』なのですか」

『『道德的価値の自覚を深める』とは、どうすることですか』等々。教育現場の教師が理解することを、だれにでも分かる言葉や例えで、教えてくださいました。多くの参会者が頷いて聴き入りました。

特に、「道德的価値は人間らしさを表す大切なものですから、分かっちゃいるけど実現が難しいという人間理解と、人それぞれでいろいろ違いがあるという他者理解を同時にやること」と表現されたのを聴き「また道德の時間の指導をやってみたい」と思ったものでした。

前田教諭の実践発表にもあったように「自己の良さ」「他者の良さ」を授業で感じられることが、「いじめ等の問題」を解消していく活動に繋がるはずで、現場で頑張っている先生方を、期待を込めて応援したいものです。来年の全国小学校道德教育研究会は岐阜県で行われます。「自己の生き方について考えを深める授業」「郷土自作資料」等で実践が進んでいることを、県道德部会の顧問校長でもある河合宣昌岐阜市教道研会長よりお聞きしました。当日は、赤堀先生が講演・助言者をされます。盛会とするためにも、皆様のご協力をお願いします。

最後に、子安会長より『『人格・品性を伸ばすには自ら求めることが大切』『道德教育の考え方・進め方を岐阜県の先生方が完成する力を付ける』有意義な研修の場になりました』と総括していただきました。

閉会の挨拶 子安会長



追悼 大倉昭氏

本会の名誉顧問をしていただきました大倉氏が、昨年12月24日亡くなられました。83歳でした。ご本人は、明日の例会に出ようと柳ヶ瀬まで散髪に出かけたそうで、寒さが身体に響いたのではないかとのご子息のお話でした。

本会の前身「本巣教育者道德研究会」立ち上げに奔走された先輩・恩人です。改めてご冥福をお祈りいたします。

教育者研究会との出会い

賛助会 大倉 昭

私の退職後の人生は、よい先生になっていただくために、研究や賛助活動のお手伝いと恩返しです。今はそれに賭けています。

こうした私の人生に喜びと信念を与えてくれたのは、何ととっても第1回の教育者研究会でのモラロジー教育観との出会いでした。確固とした教育観もなく、知識の切り売りや浮き草のような理屈屋にすぎなかった私に、すばらしい講師陣のモラロジー教育がバックボーンとして強く打ち込まれました。この教を羅針盤として、後半の人生を歩んでいます。

この出会いで、真似事に過ぎないが人生の幸せを祈る心も、時折持てるようになり、自分を磨く機会を与えられ、感謝しています。

今は、教育者部会や賛助会の立場で、微力ながらお世話させてもらえることが、私の最上の喜びです。

（「歩み」所収／第1号平成6年2月26日発行より）

